

がんの診療科DBとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用  
(H22-3次がん-一般-043)

研究分担者 佐々木茂 信州大学包括的がん治療学講座 助教

研究要旨

「がん登録」と共に「放射線治療の推進」の基盤となる放射線治療部門DBを発展させた全国的ながん診療、特に治療の質評価のためのデータベースJNCDBの実運用を行う。さらに臓器別がん登録の母体である診療科DB整備を支援して院内、地域がん登録とJNCDBとのデータ連携を進め、がん登録全体の質向上に貢献する。

A．研究目的

JNCDBの実運用すなわち全国的ながん診療、特にがん治療の質の評価のためのデータ収集・分析を行い、施設に還元する。さらにデータ元となる各施設の診療科DBのオープンソース化による整備を推進し、院内、地域がん登録とのデータ連携を進める。入力重複の現場負担を軽減し、がん登録のデータの質向上を発生源の臨床現場で図る。臓器別がん登録の実運用可能なデータベースを構築する。

B．研究方法

JNCDBの乳癌登録フォーマットに実際にデータ入力を行い、1例あたりに要する時間を測定、入力充足率の低い項目を洗い出し項目のランク付けを行う。その結果から入力項目の見直しを行い、乳癌登録フォーマットを改定する。また必要なデータを漏らすことなく入力の充足率を上げるようにするためレイアウト変更を行う。

JNCDBが実運用された場合にデータ連携が行えるよう、既存DBに症例登録を継続して行う。

C．研究結果

詳細な入力項目を有するデータベースであるが、一般臨床で用いるには入力項目が多く入力実験でも登録時間がかかったため、入力項目にランク付けを行い必須項目数を減らした。ランクの高いデータ項目については比較的容易に入力できるようになり、初期データの登録については1症例あたり5分程度となった。一方で入力項目のランク付けにより下位のランクには詳細な入力項目も残っており、各施設の登録業務の負担に合わせて必須項目数を減らすことが可能な一方、ランクの低い項目も残すことにより状況に合わせて段階的に詳細なデータも入力できるようになった。

D．考察

JNCDBの登録フォーマット基本入力項目の見直しを行い、必須項目数や入力時間の点で一般臨床でも容易に使用できるようになった。

E．結論

データ入力充足率を向上するための負担軽減を図る工夫が行われ、JNCDBの本格運用の基盤が整備された。

F．研究発表

1. 論文発表

1) Shida F, Nishina S, Asano N, Sasaki S, Sekiguchi N, Nakazawa H, Ito T, Shikama N. Late relapse of extranodal natural killer/T cell lymphoma, nasal type, after more than ten years. *Leukemia & Lymphoma*. 51. 171-173. 2010

2) Tateishi K, Koizumi T, Nakamura M, Kanda S, Kubo K, Shinoda A,

Sasaki S. Historical analysis of cisplatin and docetaxel chemotherapy with concurrent thoracic radiotherapy for locally advanced stage III non-small cell lung cancer in an institute: weekly versus conventional schedule of docetaxel. *Curr Res in Cancer*. 4. 1-11. 2010

3) Koiwai K, Shikama N, Sasaki S, Shinoda A, Kadoya M. Validation of the total dysphagia risk score (TDRS) as a predictive measure for acute swallowing dysfunction induced by chemoradiotherapy for head and neck cancers. *Radiother Oncol*. 97. 132-135. 2010

4) Shikama N, Oguchi M, Isobe K, Nakamura K, Tamaki Y, Hasegawa M, Kodaira T, Sasaki S, Kagami Y. A long-term follow-up study of prospective 80%-dose CHOP followed by involved-field radiotherapy in elderly lymphoma patients. *Jpn J Clin Oncol*. 41. 764-769. 2011

5) Shikama N, Sasaki S, Shinoda A, Koiwai K. Treatment Outcome of Elderly Patients with Glioblastoma who Received Combination Therapy. *Am J Clin Oncol* 35. 486-489. 2012

- 6) 佐々木茂. 肺癌放射線治療の合併症とその対策. 日本胸部臨床 71. 364-372. 2012
- 7) 佐々木茂. 有棘細胞癌の放射線治療. 皮膚悪性腫瘍-基礎と臨床の最新研究動向. 日本臨牀社. 518-520. 2013
- 8) 佐々木茂. 基底細胞癌の放射線治療. 皮膚悪性腫瘍-基礎と臨床の最新研究動向. 日本臨牀社. 642-645. 2013
- 9) 佐々木茂. 放射線と肺発癌(治療後の二次発癌を含めて). 最新肺癌学-基礎と臨床の最新研究動向. 日本臨牀社. 146-149. 2013

## 2. 学会発表

- 1) Shigeru Sasaki, Atsunori Shinoda, Masumi Kadoya. Treatment options in cases of local or distant recurrence of esophageal cancer that were initially treated with chemoradiation. 12th WORLD CONGRESS OF THE INTERNATIONAL SOCIETY FOR DISEASES OF THE ESOPHAGUS. Kagoshima, 2-5th September, 2010

## G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし